

2022年度農林水産省行政事業レビュー(公開プロセス)の結果
林業・木材産業成長産業化促進対策

<評価結果>

「事業内容の一部改善」

◇ 評価結果

現状通り	0名
事業内容の一部改善	5名
事業全体の抜本的な改善	1名
廃止	0名

<取りまとめコメント>

○事業の課題や問題点

- ・都道府県への交付金事業であるとのことだが、林業・木材産業としての産業戦略を担う林野庁がリーダーシップを発揮して、地域別にもメリハリある対応が実現されるべき。
- ・林業・木材産業の成長産業化、という目的に照らせば、本事業のメニューをバラバラではなくつないだ形での事業推進が求められるのではないか。
- ・川上から川下までの連携による林業の生産性向上という本事業の特色を活かすことができる事業実施方法を検討する必要がある。複数の事業の寄せ集めではないことを明確にしていく必要がある。
- ・事業目的が広く抽象的にも関わらず、長期アウトカムは一つであり、論理に飛躍がある。事業目的達成のための道筋を細分化してアウトカムを設定すべきである。
- ・アウトプット・アウトカム指標が、実際の執行を管理するものになっていない。
- ・「林業・木材産業の成長産業化」の必要性はよく分かるが、現在のウッドショックといった状況変化や中長期の展望に沿った形での具体的な戦略の落とし込み、さらには、モニタリングすべきアウトプットやアウトカムの把握が不十分。
- ・細かく指標が設定されているが、外的要因の影響を受ける面がそれなりにあり事業評価が難しいと思われる。
- ・バイオマス利用促進施設の促進状況、そのボトルネックとなっているところ、また、運営開始後も持続的に運営がなされているかが不明である。
- ・林業特有の長期視点は分からないでもないが、具体的にこの数年でやるべきこと、達成すべきことを明らかにして、都道府県や林業者、関連業界の協力を総動員した取り組みが必要。その点で「抜本的な」視点でやるべきことをあらためて精査すべき。

○事業の改善の手法や見直しの方向性

- ・産業戦略を企画立案し、その推進を担う林野庁の高い専門性、リーダーシップのさらなる発揮。
- ・当事業の建付けを踏まえると、アウトカム指標の設定において、各メニューの主目的に合わせたものと同時に、林業サプライチェーンへの波及効果も踏まえたものを設定すべきではないか。
- ・川上から川下まで一つの事業で実施することによる利点を改めて検討及び認識する必要がある。
- ・川上から川下までという事業は評価できる。成長産業化に向けて各段階のボトルネックは各所に存在することから、都道府県からの提案で事業が実施されることも有効である。一方で、守備範囲が広いので、それぞれの事業が効果が出ているのかの評価が難しい。工夫はされているが、継続的な改善が必要。
- ・上記に関連し、目標の設定は都道府県発でその積み上げが事業全体の成果になっているが、長期的なアウトカムへのつながりが分かりにくい(工夫が必要)。
- ・事業が川上から川下まで非常に幅広いので、必ずしもアウトカム指標だけでなくアウトプット数値も総合的に勘案しながら事業の評価検証ができるような仕組みを考えてほしい。
- ・短期アウトカムの”目標”は工夫が必要。すでに達成できている値が目標でよいのか。
- ・アウトプット・アウトカム指標について、全体の事業を通して連携して測れるものとするとともに、すでに目標達成してしまっているかのようなものではなく、現実的に、目標に対する進捗が管理できるものに改善すべき。
- ・バイオマス利用促進施設が促進されないボトルネックとなっている原因を的確にとらえ、施設を作ることを目的化せず、持続的に運営ができているかどうかをモニタリングを適切に行い、その継続的な実施状況について、(経産省と連携しまたは単独でも)開示すべき。
- ・具体的にこの数年でやるべきこと、達成すべきことを明らかにして、都道府県や林業者、関連業界の協力を総動員した取組。
- ・施策や需給動向等の共有にとどまる関係者間の会議体ではなく、この数年で達成すべきこと、やるべきことにコミットした林野庁、都道府県、産業界が集まり、その達成のために今何をやるのか、お互いに示唆し、次なるアクションが具体化できる会議体であるべき。